

注意ポイント!

壁の中の
見えない柱をさがす

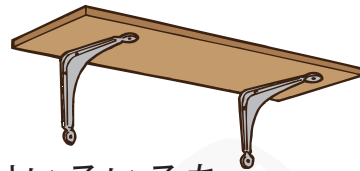


棚受けは必ずネジやクギのきく柱や棧に取り付けないと、棚が倒れてしまいます。壁をノックするように叩くと中が空洞のような音と詰まっているような音がするところが必ずあります。詰まっている音がするところが柱のある場所です。

基本的な棚の作り方

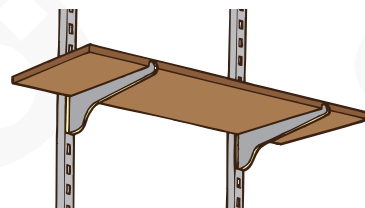
■壁面

壁にL字型の棚受けを取り付けて、棚板を乗せます。壁に立体的なちょっとしたアクセントをつけたい場合にはこの方法がいいでしょう。L字型棚受けにはいろいろなデザインがあるので、軽い物や重い物といった乗せたい物によってその大きさを自由に選べます。



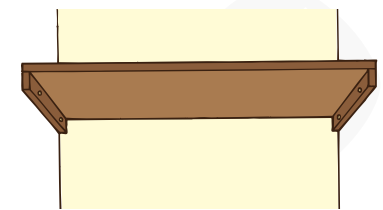
-- 高さが自由に変えられる棚 --

棚受け支柱を壁に取り付け、棚受け金具を使いたい高さに付けかえられ、何段でもつけられる応用範囲の広い棚です。



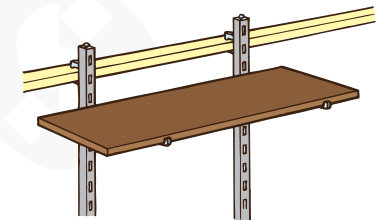
■狭い場所

トイレや押入れの中、廊下の突き当りなどコーナー部分に棚をつけたい場合に適している方法です。受け木を取付け、それに棚板を乗せます。



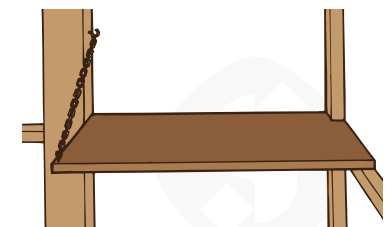
■鴨居や長押

鴨居をはさむ金具をまず取付け、それに棚受け支柱をビス止めしてから、棚受けを好きな高さにつけます。



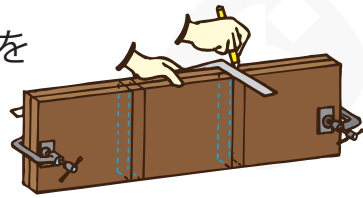
-- 鴨居や長押の上に付ける棚 --

コーナーの片方と奥の長押に棚板を乗せ、片方をチェーンや板で支える棚で、軽い物向きです。

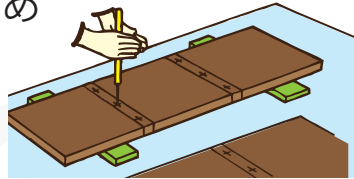


ボックス棚の作り方

- ①棚を水平に仕上げるために棚板を合わせてクランプで止め、棚の位置に印をつけます。

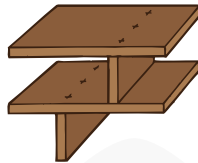


- ②木ネジを打つところにあらかじめ印をつけて、キリで下穴をあけておきます。

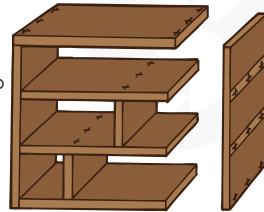


※木材に直接ねじを締めていくと木が割れてしまったり、ねじが斜めに入ってしまうなどの原因になります。

- ③縦に仕切を入れる場合は、先に組み立てておきましょう。



- ④中仕切りに箱の外側になる板をネジかクギで止めて出来上がりです。裏に薄いベニヤ板を張ると箱がしっかりします。



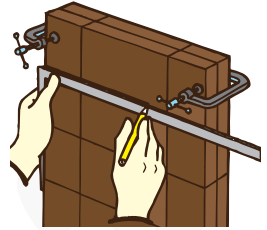
箱を作る要領で中に仕切を付ける棚。

クギよりも木ネジを使う方が強度は強くなります。重い物を乗せる場合は、その棚板の下に縦の棧を一枚入れるだけでずいぶん重い物も乗せられるようになります。

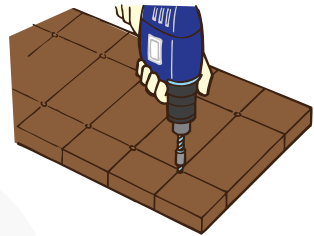


■箱の棚受けをダボにする場合

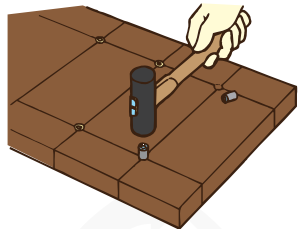
- ①2枚の棚板をクランプで合わせてダボをつける位置に印をつけます。ダボの穴を必要な数よりも多く、5cm 間隔ぐらいにつけておくと、仕上がった後からでも棚の高さを調節できます。



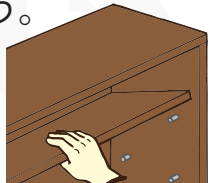
- ②ダボの径と同じ径のドリルビットで穴をあけていきますが、あらかじめ棚板に入るダボの深さより多少深くなるビットの位置にテープを巻いておくと深く開け過ぎずに済みます。ドリルは必ず板に直角になるようにしっかり持って穴あけしてください。



- ③埋め込み式のダボなら、メスダボをカナヅチで軽く叩きながら埋めていきます。穴がゆるい場合はエボキシ系の接着剤をつけて打ち込んでください。



- ④本体を組み立ててからダボを差し込んでいきましょう。そのダボの上に棚板を置いて出来上がりです。



ダボの種類

ネジ込み式タイプ



ネジ込みダボ

穴をあけて差し込むタイプ



ストレートダボ



木製ダボ

埋め込み式タイプ



埋め込みダボ

